

中部大学通信



SINCE 1967

No. 235

November 2025

ウプト

w p w t



ウプトとは、古代エジプトのヒエログリフ（象形文字の一種）で、「伝達する人」の意味。エジプト古王国の碑文などに見られ、19世紀初めにフランスのシャンポリオンが解読している。



特集

11月1日、第62回中部大学祭での模擬店付近の様子

ハンドボール部
秋季リーグ戦優勝！
全日本インカレ出場！

地域食材や 未利用資源に魅せられて

食品栄養科学科 田中 守 准教授

私は食べることが好きです。料理をするのも好きで、旅に出るのも好きです。知らない味や文化に出会えると、つい夢中になります。ただ食べるだけでも十分おいしいのですが、その背景を知ってから口にする、さらに深い味わいを感じられる気がします。食材の裏側には土地に根付いた暮らしや歴史があり、地域文化と共に味わうことで、不思議とおもしろさが増すように思います。

これまで私は、高知県室戸市のハマアザミや東南アジアの食用カンナ、愛知県春日井市のサボテンなど、地域ごとに受け継がれてきた多彩な食材に出会ってきました。また、かんきつの葉や皮、麦芽かすといった、今は未利用資源として廃棄されがちな素材にも関心を寄せてきました。

一方で現代の食環境は変化しています。大量生産と消費が進むなかで、地域食材は日常の食卓から姿を消しつつあり、後継者不足によって食文化の継承も難しくなっています。未利用資源も顧みられず、廃棄されることが多いのが現状です。私はそこに「食品機能性」という科学的視点を加えることで、健康や栄養の観点から新しい付加価値



CONTENTS

桃園四季 P01

地域食材や未利用資源に魅せられて

田中 守准教授

特集 P03

ハンドボール部 秋季リーグ戦優勝！ 全日本インカレ出場！

CU Sports Spirit P05

剣道部 全日本学生剣道選手権大会に 3人が出場！

本学出身のプロアスリートの ユニホーム展示がスタート!!

わがクラブ P06

水泳と共に成長する日々 水泳部

学生編集委員のページ P07

夢や目標に向かって全力中！

Close Up P11

インフルエンザウイルスは アルカリ環境に弱いのか!?

ようこそわが研究室へ P13

文学作品から 作家によるメッセージを読み解き、 多様化した社会を学ぶ 安保 夏絵研究室

A Friend from Abroad P14

日本語と中国語の違いを探究し、 教育の現場へ 劉 雪婷さん

私の学生時代 P15

面白いほうへ 渡邊 天鵬特任助教

活躍するOB P16

地域インフラの未来を「共創」する 米山 創さん

CAMPUS NEWS P17

第62回中部大学祭 etc.

Random Shot P22

「学生ファースト」の姿勢 小川 英雄さん

を見いだしたいと考えています。そうすることで、地域資源を「埋もれているもの」から「生かされるもの」へ変え、文化の継承や新しい食文化の創出、持続可能な社会につながれると信じています。

私にとって「バイオサイエンス×食文化の融合」は単なる研究テーマではなく、好奇心を形にする入り口です。手を動かし実験する時間も好きですが、それと同じくらい、食材に触れ、生産者や地域の人の声を聞き、その背景を知る過程に魅力を感じます。科学的なデータは、そうした体験に裏打ちされた「物語」を支える道具の一つにすぎません。

皆さんも、自分の心をときめかせるものを大切にしてみてください。好奇心は未来を切り開く小さな鍵だと思えます。私の旅はまだ続きますが、次はどんな食材と出会うのか常に楽しみにしています。



ウチワサボテン



食用カンナ



ハマアザミ



田中 守

たなか まもる

川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科博士後期課程修了。博士(健康科学)。専門は栄養免疫学、栄養機能学。趣味は料理、お出かけ。研究室ではよくサイフォンで淹れたコーヒーを楽しんでいる。



麦芽かすを使った商品

東海学生ハンドボール秋季リーグ戦

優勝！



東海学生ハンドボール連盟の1部に所属するハンドボール部は、8月30日に開幕した秋季リーグ戦で堅実な守備とスピードのある多彩な攻撃を武器に、最終戦を前に7勝1引き分けて、勝ち点が並んでいた名城大学に得失点差で70点以上の差をつけ、首位に立っていました。

10月4日に行われた大同大学との最終戦では、序盤から緊張を感じさせない「いつも通り」のプレーを発揮し、前半を18対11とリードしました。後半も立ち上がりから、村田大希選手(経営総合学科1年)の攻撃的なディフェンスと、ゴールキーパーの濱野太選手(国際学科4年)のファインセーブで勢いをつけます。また、ハリス希生選手(経営総合学科1年)、平野凌斗選手(スポーツ保健医療学科4年)らがシュートを決め、怒涛の攻撃を展開。最終的に39対27で快勝し、見事無敗での優勝を果たしました。

会場となった本学の講堂(体育館)には、多くの保護者や在学生・教職員、卒業生も優勝の瞬間を見届けるために駆け付け、熱い声援が会場全体に響き渡っていました。

高松宮記念杯
男子第68回

全日本学生ハンドボール 選手権大会 出場！



11月2日から6日までいしかわ総合スポーツセンター（金沢市）で開催された、高松宮記念杯男子第68回全日本学生ハンドボール選手権大会に出場しました。初戦は2年前の準決勝で敗れた筑波大学（関東学生ハンドボール連盟）と対戦。あの時の悔しさを胸に、全国の舞台・金沢で迎えた初戦でした。

試合序盤は互いに一歩も譲らない展開。主将の平野凌斗選手（スポーツ保健医療学科4年）を中心に多彩な攻撃を展開し、得点を重ねていきました。相手のエースが決めれば、こちらも1年生エース・ハリス希生選手（経営総合学科1年）が躍動し、互角の攻防が続きました。

しかし、筑波大学の多彩な攻撃を止めきれず、前半を6点ビハインドで折り返します。

ハーフタイムでは、「失点を抑えること」「自分たちが徹底すべきことを再確認して後半戦へ挑みます。平田海里選手（建築学科3年）や池田一貴選手（国際学科3年）の活躍もあり、一時は点差を詰める場面も見られましたが、あと一歩流れをつかみきれず、時間が過ぎていきました。

結果は33対39で惜敗。東海学生ハンドボール秋季リーグを無敗で制し、自信を持って臨んだ大会でしたが、全国の壁の高さを痛感する結果となりました。

今大会をもつて4年生は引退。チームに残した思いを胸に、後輩たちは新たな挑戦へと歩みを進めます。

第64回 西日本学生ハンドボール選手権大会 ベスト8！

8月12日から17日まで福岡市民体育館（福岡市）をメイン会場として開催された第64回西日本学生ハンドボール選手権大会に出場したハンドボール部（東海学生ハンドボール連盟）は予選Bブロックで、松山大学（中四国学生ハンドボール連盟）に35対23、九州共立大学（九州学生ハンドボール連盟）に27対17、同志社大学（関西学生ハンドボール連盟）に30対21で勝利し、1位で決勝トーナメントに駒を進めました。

決勝トーナメント初戦で大阪体育大学（関西学生ハンドボール連盟）に36対35で惜しくも敗れ、ベスト8となりましたが、11月2日から石川県で開催される全日本学生選手権大会への出場権を獲得しました。



中部大学のスポーツに関するホットな話題を取り上げる「CU Sports Spirit」。

今回は、全日本学生剣道選手権大会に出場した剣道部を紹介します！

また、本学出身のプロアスリートのユニホーム展示についてご紹介します。

剣道部 全日本学生剣道選手権大会に 山田陸斗さん、羽賀唐馬さん、 鈴木来実さんが出場！

5月18日にスカイホール豊田（豊田市）で開催された第72回東海学生剣道選手権大会で山田陸斗さん（経営総合学科2年）と羽賀唐馬さん（経営総合学科1年）が第73回全日本学生剣道選手権大会への出場権を獲得しました。また、女子の部では鈴木来実さん（現代教育学科現代教育専攻3年）が初優勝を果たし、第59回全日本女子学生剣道選手権大会への出場を決めました。

7月5・6日に日本武道館（東京都千代田区）で行われた第73回全日本学生剣道選手権大会に山田さんと羽賀さんが、第59回全日本女子学生剣道選手権大会に鈴木さんが出場しました。結果は山田さんと鈴木さんが2回戦敗退、羽賀さんが1回戦敗退となりました。

全国の舞台で全力を出し切った選手たちは、結果への悔しさを胸に抱きつつも、やり切った清々しい笑顔で会場を後にしました。この貴重な経験を次のつなげ、さらなる成長を遂げる選手の皆さんの活躍を期待しています！



羽賀さん



鈴木さん



左から羽賀さん、山田さん、鈴木さん



山田さん

現在、以下の4人の選手のユニホームを展示しています。



〈ハンドボール〉

岡本大亮選手
トヨタ車体
ブレイヴキングス

〈ラグビー〉

加藤一希選手
クボタスピアーズ船橋・
東京ベイ

〈野球〉

石川歩選手
千葉ロッテマリーンズ

〈野球〉

谷元圭介選手
元中日ドラゴンズ

本学出身の
プロアスリートの
ユニホーム展示
がスタート!!
キャンパスプラザ1階で本学出身のプロアスリートのユニホーム展示がスタートしました。ユニホームと一緒にプロフィールも掲示されています。キャンパスプラザにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

わがクラブ

水泳部

Club News No.201

水泳と共に 成長する日々

中部大学水泳部は1981年に創部され、大学のプールを拠点として40年以上にわたり活動が続けてきました。創部以来、多くの学生が水泳に情熱を注ぎ、数々の大会に出場してきました。

水泳部が大切にしている理



念は「プールは道場である」という考え方です。この言葉には、プールは単なる練習の場ではなく、人間的な成長の場であるという意味が込められています。水泳技術の向上はもちろん、礼儀や作法を学び、仲間との人間関係を築く力を養うことを目指しています。水泳部での経験は、競技成績以上に、一人一人の人格を形成する大切なものとなっています。

私たちが最大の目標としているのは、7月に開催される中部学生選手権（中部インカレ）です。この大会で上位に入ることができれば、全国の舞台である全日本インカレへの切符を手にすることが出来ます。そのため、部員たちは日々練習に励み、1秒でも速く泳げるように努力を重ねています。

水泳部と聞くと「夏だけの活動」という印象を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、中部大学水泳部は室内プールを使用しているため、1年を通じて活動しています。5

月には中部学生短水路選手権が行われるため、それに向けて部内代表を決定し、7月の中部インカレに挑みます。

練習メニューは監督と部員が相談して作成し、練習は学生主体で進められています。こうした部員による部活動を運営する姿勢は、水泳部の特色の一つかと思えます。

さらに私たちは、競泳だけでなくアーティスティックスイミングや、海で長距離を泳ぐオープンウォータースイミングにも取り組んでいます。こうした幅広い活動は、水泳の魅力をより深く知るきっかけにもなっています。

水泳部に興味を持ってくださった方は、実際に部活動を見学していただけると、水泳部の魅力がより伝わると思えます。

これからも中部大学水泳部は、新しい挑戦を続けていきます。そして「中部大学水泳部に所属してよかった」と思えるクラブであり続けることを目指していきます。

水泳部 主将
歴史地理学科3年

高橋 佳和





夢や目標に 向かって全力中!



「今、どんなことを頑張っていますか？」



その答えには、一人一人が抱く夢や目標に向かう姿がありました。
今回の学生編集委員ページでは、その思いや取り組みをまとめました。



龍野 心優さん コミュニケーション学科3年
学芸員資格取得のために勉強しながら放送研究会で活動をしています。メディア関係で働きたいと思い、水族館や博物館が大好きな気持ちが、学びのモチベーションになっています。



牛田 智也さん 日本語日本文化学科2年
中部大学の「1つのキャンパスに全ての学部学科が集まる」という特長を生かし、多くの人と関わりたいです。また、好きな「eスポーツ」を通じて、チームワーク力を高めたいと考えています。



角田 耀駿さん 経営総合学科1年
韓国アイドルを好きになったことで、韓国語の歌詞を理解したいと思い勉強を始めました。主に単語帳や韓国ドラマなどを見て学んでいます。難しいですがとても楽しいです。



清水 さくらさん 心理学科4年
将来を考えたとき、地元を支えることは面白いと感じました。私の地元、瀬戸市は焼き物「瀬戸物」で有名なので、そうした文化を学びながら成長していきたいと思っています。



久保田 温万さん 英語英米文化学科4年
現在4年生なので、残された大学生活の中でこの目標を達成できればと思っています。人文学部はTYK Dining (第3学生ホール) が身近な存在なので、まずはそこから巡りたいと考えています。



真辺 実香さん 国際学科4年
フィリピンでの生活やディズニーキャストの経験を通じて培った語学力を生かし、日本の玄関口である空港でグランドスタッフとしてお客様を笑顔にする仕事がしたいです。



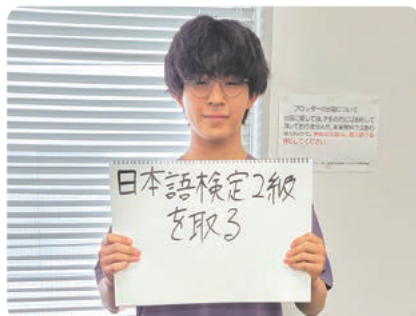
Catch the Dream!

You can do it.



山内 凜汰楼さん 情報工学科1年

将来の目標はプログラマーになることです。大学での学びを深め、将来は急速に発展している情報社会の中で、少しでも社会に貢献できる仕事に携わりたいと考えています。



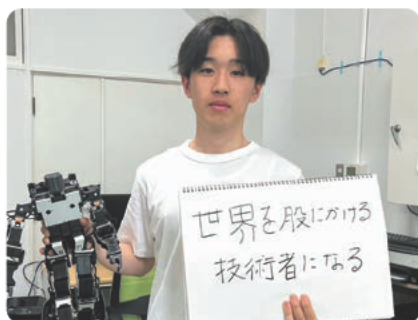
荒沢 航希さん 都市建設工学科1年

日本語検定2級合格を目指し、授業の復習を徹底すること、テキストの問題を繰り返し解いています。苦手な部分は毎回復習し、合格を目指すことで語彙力を高め、さらに人脈を広げたいと考えています。



山本 健翔さん 歴史地理学科3年

中学校・高等学校の社会科教員免許取得に向け、日々勉強に励んでいます。歴史を自分の言葉で面白く教えてくださった恩師との出会いがきっかけで、自分もその先生のような教師になりたいと思いました。



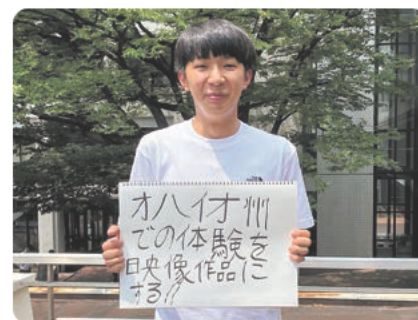
片岡 大士さん ロボット工学科4年

ロボットに強い関心があり、将来はその業界に進みたいと考えています。世界に視野を広げ、他国に負けない技術を開発できる技術者を目指し、日々ロボットに向き合っています。



高橋 勇輝さん 建築学科3年

3DCADは、パソコンでモデル作成や製図を行うソフトです。集合住宅などの図面を一から作るのは大変ですが、将来はお客様に喜ばれる希望に沿った住宅を作りたいです。



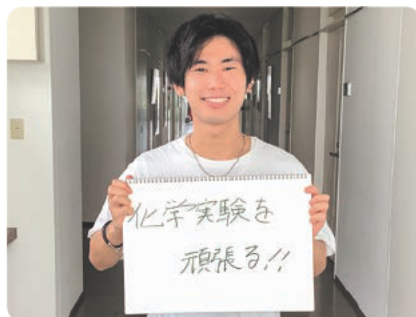
小松 亮太さん メディア情報社会学科2年

2025年度オハイオ大学長期研修に参加しました。留学中には念願のメジャーリーグ観戦も叶いました。研修での体験を映像作品に昇華し、見る人の心を動かす作品を作りたいと考えています。



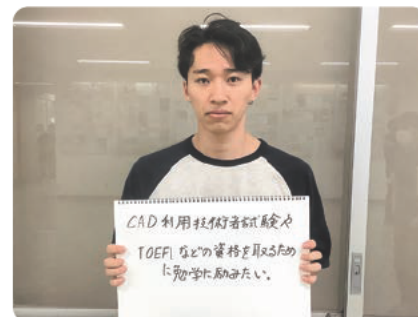
鈴木 雄貴さん 電気電子システム工学科4年

現在、雷から物を守る研究に取り組んでいます。将来は大学で学んだ知識や経験を生かして、人々の暮らしや設備を守るなど、生活に役立つ仕事に携わりたいと考えています。



佐藤 優成さん 応用化学科4年

繊細な微調整を要するセラミック圧電体の特性向上をテーマに、その内容を理解するとともに、研究を通じて実験の奥深さを体感し、自身の考えの幅を広げていきたいと思っています。



渥美 順太さん 機械工学科2年

留学を通して、英語の楽しさや今後の必要性を実感し、英単語の学習をはじめとした勉強に励んでいます。また、CAD利用技術者試験に向けても懸命に取り組み、将来の就職に生かしたいと考えています。



今井 結希乃さん 食品栄養学科食品栄養科学専攻2年
私はラクロス部に所属しており、現在は部活動に注力しています。一方で、来春には奨学金を利用して留学する予定のため、勉強面でもGPAを下げないように頑張りたいです。



金光 流駈さん 宇宙航空学科2年
私はラクロス部に所属しています。今年は「全勝と精進」を目標に部活動に注力したいです。また、学科の勉強も大変ですが、部活動と学業の両立を目指して充実した学生生活を送りたいと考えています。



西原 真弘さん 大学院宇宙航空理工学専攻博士前期課程1年
将来はまだ漠然としていますが、夢のあるものを作りたいと考えています。今は実現が難しいかもしれませんが、超音速旅客機のような人々の生活を大きく変えるものを作りたいです。



吉村 琉李さん 食品栄養学科管理栄養科学専攻1年
私はかつて拒食症で入院していました。今は家族や医療関係者の支えのおかげで元気に過ごせています。その経験から、自分も誰かを助けられる側になりたいと思い、この目標を立てました。



築地 旬夏さん 応用生物化学科2年
ももとはは昨年の目標でしたが、資格取得のために30万円を使ったため達成できませんでした。今年こそ100万円の貯金を達成するため、この目標にしました。現在は節約に取り組んでいます。



中川 千颯さん 数理・物理サイエンス学科3年
私の目標は、笑顔あふれる数学の教員になることです。もともと数学が苦手でしたが、中学生の時に会った先生のおかげで数学が大好きになりました。その経験が、この学科を選んだ理由の一つです。



石原 李紗さん 生命医学科2年
私は臨床検査技師を目指し、授業やレポート、試験勉強、資格取得に向けた学習に日々取り組んでいます。部活動と勉強を両立させながら、夢に向かって充実した大学生活を送っています。



前田 篤志さん 環境生物科学科3年
応生農場サポーターズに所属し、化学肥料や農業に頼らずお米を育てています。10月に稲刈りを行い、12月に試食会を実施します。心を込めて育てたお米を、ぜひ味わっていただきたいです。



坂 虎之輔さん AIロボティクス学科3年
私の目標は、学科での学びと趣味を掛け合わせてアプリケーションを作ることです。趣味のバンド活動で使う機材のレビューを簡単に確認できるアプリの開発を目指しています。



吉村 希
国際学科
3年



西岡 夏実
ロボット理工学科
4年



塚本 愛美
ロボット理工学科
4年



加藤 涼子
コミュニケーション学科
4年



小林 愛実
日本語日本文化学科
4年



河村 明音
日本語日本文化学科
4年



江口 心
日本語日本文化学科
4年



伊藤 帆乃佳
日本語日本文化学科
4年

ウプト
学生編集委員の
私たちが企画・
取材しました。



奥田 衣桜さん 現代教育学科現代教育専攻2年
子どもたちが安心して楽しく学べる学校を作りたいと思い、この目標を掲げています。また、一人一人に寄り添った指導ができるよう、特別支援学校教員免許の取得にも励んでいます。



田岡 花菜さん 臨床工学科3年
学科で心電図検定4級の取得が推奨されています。現在、心電図の授業を受講しており、復習をかかさず毎日参考書に取り組んでいます。着実に理解を深められるように努力しています。



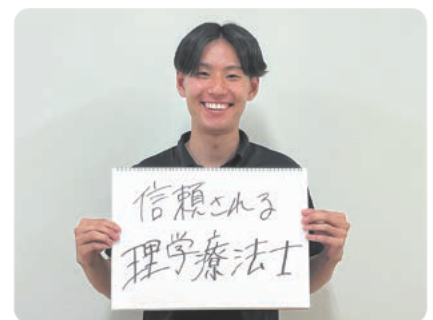
水野 由菜さん 保健看護学科2年
私は看護師や保健師を目指しています。また、英語にも興味があり、オハイオ大学長期研修に参加しました。今後も向上心を持って学習に取り組みたいと考えています。



橋本 風さん 現代教育学科中等教育国語数学専攻2年
子ども支援教室に通う子どもたちの「学童保育」を、仲間と協力して運営しています。勉強の指導も行いますが、第一に「居場所づくり」を重視し、利用を広めたり子どもたちへの対応方法なども考えています。



安藤 侑希さん スポーツ保健医療学科2年
私の夢は救急救命士になることです。大学のEMS (Emergency Medical System) 研究会で医療に興味を持ったことがきっかけです。夢を叶えるため、資格の勉強はもちろん、体作りにも励んでいます。



川村 晃平さん 理学療法学科4年
私は信頼される理学療法士を目指しています。患者さんに心を開いていただくことが良い関係を築く第一歩と考え、コミュニケーションを通じて信頼関係を構築していきたいです。



特に1・2年生を歓迎しますが、学年は問いません。いつからでも始められます。関心のある方は、入試・広報部制作課(1号館1階)までお越しください。電話・メールでもお問い合わせ可能です。

☎ 0568-51-4465 (入試・広報部制作課直通)
✉ chubu-selsaku@fsc.chubu.ac.jp



熊谷 沙来さん 幼児教育学科3年
現在、保育士資格の取得を目指して講座を受講しています。資格取得の過程で各市の公務員の取り組みを知ることが、地域に合った活動を考えるうえで役立つと考えています。



山口 はるみさん 作業療法学科1年
患者さんの心に寄り添える作業療法士を目指し、日々勉強に励んでいます。課題や覚えることが多く大変ですが、目標を達成するためにこれからも努力を続けていきます。



寺西 明
現代教育学科
2年



星野 結菜
食品栄養科学科
2年



森山 裕多
宇宙航空学科
2年



神戸 朋瑛
AIロボティクス学科
2年



村松 大雅
心理学科
2年



熊部 日菜
国際学科
2年



小野 あんじゅ
国際学科
2年



阿部 倫弥
歴史地理学科
3年



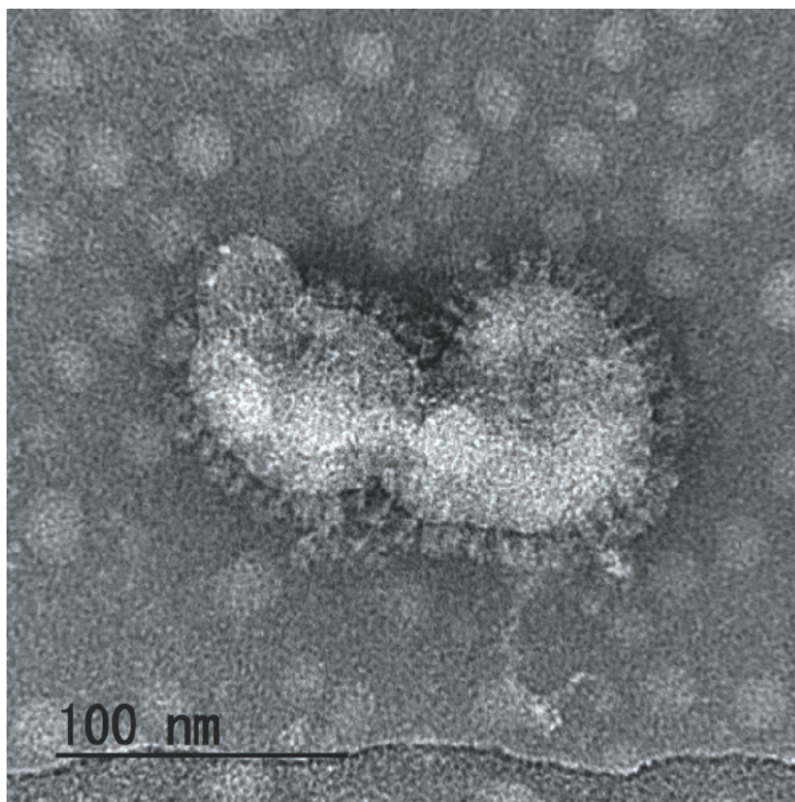
田中 佑佳
コミュニケーション学科
3年



伊藤 麻央
コミュニケーション学科
3年

生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 伊藤 守弘教授

インフルエンザウイルスは アルカリ環境に弱いのか!?



電子顕微鏡で捉えられたインフルエンザウイルス

インフルエンザは、例年12月上旬から1月に感染者が増え、1月から3月にかけて流行します。インフルエンザといえば、真冬に流行する感染症の代表との認識が強いのではないのでしょうか。ところが、近年は夏の流行が珍しくありません。2025年9月9日の新聞報道によると、愛知県と三重県で、インフルエンザ感染による今年初めての学級閉鎖が確認されています。普通のかぜ(感冒)の多くは、のどの痛み、鼻水、くしゃみや咳などの症状が中心で、全身症状はあまりみられません。インフルエンザはそれらの症状の他に突然の38度以上の発熱や頭痛、関節痛、筋肉痛などの症状が全身に現れます。また、気管支炎や肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんや脳症などを併発し、重症化することもあるため、高齢者や小児では特に注意が必要な感染症です。

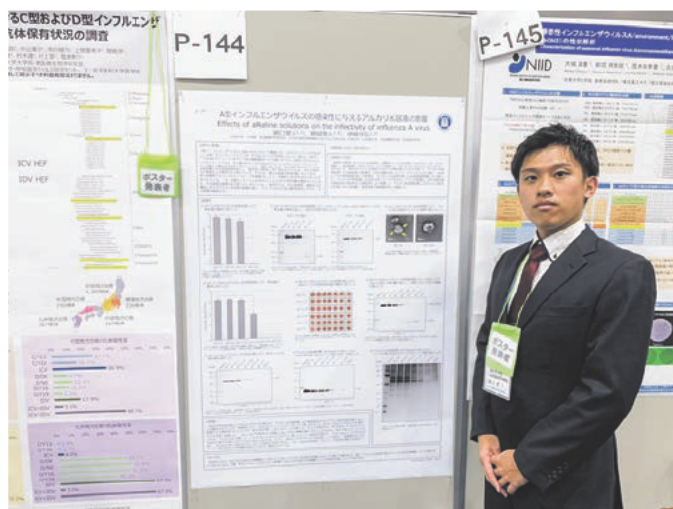
インフルエンザウイルスは、A・D型の4種類に分類され、そのなかでもA型インフルエンザウイルスは特に感染力が強いと報告されています。ウイルスの一番外側を覆う脂質二重膜の構造をエンベロープと呼び、この膜に2種類のスパイクタンパク質があり、感染に大きく関与しています。このエンベロープを持つウイルス(コロナウイルス、インフルエンザウイルス、ヘルペスウイルスなど)と持たないウイルス(ノロウイルスやロタウイルスなど)が自然界に存在します。

エンベロープを持つウイルスは、現在、主にアルコールによるエンベロープの破壊作用を利用したウイルスの不活化が行われています。当研究室で



伊藤 守弘教授

学長補佐。博士(医学)。専門は予防医学。特にウイルス感染症や熱中症の予防など、病態因子の解明に力を注いでいる。アウトリーチ活動として、本年2月に日本テレビ系「カズレーザーと学ぶ。」にインフルエンザの特集回で出演し、話題となった。



瀬口愛斗さん



日本テレビ系「カズレーザーと学ぶ。」に出演した際の写真

に掲載されています。

詳しい研究内容は学会で発表し、ウイルスの専門誌「Viruses」(2024 Oct 19;16(10):1636.)

に掲載されています。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されます。外出した後は石けんで手を洗い、うがいをしてください。さらに、室内の換気をして感染防止対策をしてください。せきなどの症状がある際は、マスク着用を心がけるなど、周囲の人によくない行動もお願いします。

信じています。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されます。外出した後は石けんで手を洗い、うがいをしてください。さらに、室内の換気をして感染防止対策をしてください。せきなどの症状がある際は、マスク着用を心がけるなど、周囲の人によくない行動もお願いします。

結果、アルカリ水溶液がウイルスエンベロープのスパイクタンパク質を分解もしくは変性させることを発見し、感染する力を不活化させることを世界で初めて証明しました。この研究結果は、インフルエンザウイルス感染症を予防する新たな選択肢の一つとして、アルカリ水溶液が有望であることを示しています。使用方法の検討や人への応用はまだ先になりますが、この科学的根拠の積み重ねがいつか地球規模の課題を解決すると信じています。

実験は、 pH の異なる水溶液をA型インフルエンザウイルスに作用させて行いました。その結果、アルカリ水溶液がウイルスエンベロープのスパイクタンパク質を分解もしくは変性させることを発見し、感染する力を不活化させることを世界で初めて証明しました。この研究結果は、インフルエンザウイルス感染症を予防する新たな選択肢の一つとして、アルカリ水溶液が有望であることを示しています。使用方法の検討や人への応用はまだ先になりますが、この科学的根拠の積み重ねがいつか地球規模の課題を解決すると信じています。

は、アルコールが万能ではないことを問題点と捉え、アルコール以外でインフルエンザウイルスの感染を予防できる方法を考えていました。古くから、アルカリ水溶液によりA型インフルエンザウイルスの感染する力が不活化される現象が実験で確認されていたことを知っていました。しかし、どのようなメカニズムで不活化されるかは明らかにされていなかったため、大学院生である瀬口愛斗さん(生命健康科学研究科生命医科学専攻博士後期課程2年)とこの課題に取り組みました。

ようこそ

わが研究室へ

vol.188

英語英米文化学科
安保 夏絵研究室

文学作品から作家による
メッセージを読み解き、
多様化した社会を学ぶ

安保研究室では、英米文学を中心に、女性の生き方や社会における位置付けについて、小説ではどのように描かれているのかという点に着目して研究しています。特に、ジェンダーやセクシュアリティ、人種、貧困といった問題に目を向け、社会の規範や人間中心主義、男性中心主義を問い直すことを大切にしています。文学作品を読むことで、多様な価値観を学びながら、社会のさまざまな側面を知り、想像する力、そして考える力を養うことを目指しています。

ゼミではまず、イギリスの女性作家メアリー・シェリーが書いたサイエンスフィクションの『フランケンシュタイン』を読み進めながら、文学批評の方法や小説の特徴(語り手、時間、アイロニー、文体など)、そして時代背景やジェンダーについて学びました。その後、学生一人一人が自分の関心に基づいて小説を選びテーマを設定し、文献を読み、ディスカッションしています。授業の雰囲気はとても活発で、互いの意見を尊重し合いながら自由に発言できる環境です。一方、英米文学だけでなく、映画やサブカルチャーなど幅広く題材を取り扱っているため、自分の興味を大切にしながら研究を進められるのも安保研究室の魅力です。



ゼミ生レポート



英語英米文化学科3年
岩井 美侑

ゼミ生に
ひとこと



英語英米文化学科
あんぽ なつえ
安保 夏絵 助教

文学は、時に人生を乗り越えるための「ソフトパワー」として、皆さんの生き抜く力になることがあります。私の研究室では、文学作品を読む楽しさを大切にしつつ、作品に隠された問題意識や作者が伝えなかったメッセージを一緒に考えていきます。作品を通して、「人間らしさとは何か」「多様な生き方とは何か」という問いの答えをゼミのメンバーと一緒に模索しながら、自分自身の視点も一緒に広げていきましょう。

先生はこんな人

安保先生は、一人一人の興味・関心を肯定し、親身になって向き合ってください。ゼミでは、そうした先生の姿勢に影響を受け、学生が前向きに取り組むことができています。学生との距離も近く、時に最近読んだ文学作品や見た映像作品について語り合うなど、親しみやすい先生です。先生との会話は常に新しい学びがあり、自然と知的好奇心が高まります。





File.115

Liu Xueting
劉雪婷さん

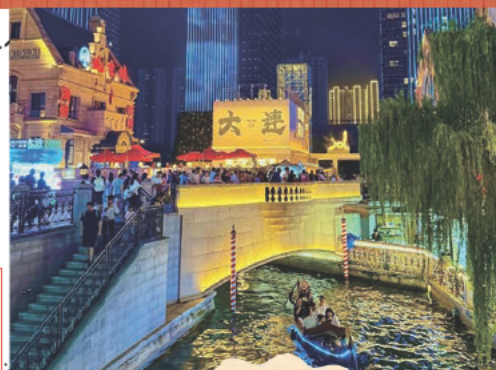
国際人間学研究科言語文化専攻博士前期課程2年

A Friend from Abroad



中華人民共和国(遼寧省大連市)

遼寧省は中国東北部に位置し、省都は瀋陽市。人口は約4,200万人、面積は約14.9万km²。大連市や鞍山市、撫順市などの主要都市があり、重工業や造船業を中心に発展。歴史的には満洲の中心地として知られ、観光地も豊富である。



日本語と中国語の違いを探究し、 教育の現場へ



Q. これまでの経緯を教えてください。

中国遼寧省大連市で生まれ育ち、ハルビン理工大学に進学しました。そこで日本語による教育を受けるとともに、大学3年次には1年間、中部大学に留学し、先生や学生たちの明るく楽しい雰囲気強くひかれました。卒業後に再来日し、中部大学に改めて入学して、現在は国際人間学研究科言語文化専攻博士前期課程2年として勉学に励んでいます。大学やアルバイト先では多くの友人との出会いもあり、充実した日々を過ごしています。

Q. 今学んでいることを教えてください。

現在は、日本語と中国語における同形異義語について研究しています。例えば「勉強」という同じ漢字でも、日本では「学ぶ」と解釈される一方、中国では「無理強いする」という意味になってしまう、といった使い方の違いの事例を調べています。

日本の大学で人と直接触れ合いながら学べることは、貴重な経験だと感じています。

Q. 将来の夢を教えてください。

中国に戻り、日本語教師になりたいと考えています。幼い頃から先生になるのが夢で、大学院に入学する前に、中国の日本語塾で日本語を教えるアルバイトをしていたこともあり。現在、中国で日本語を学ぶ人が増えているので、その役に立ちたいと思っています。

また、10月に台湾の中国文化大学で教育実習を行い、日本語を教える機会を得て、とても良い経験になりました。

Q. 日本語を学んでみて特に難しいと思ったことを教えてください。

敬語が日本語の中で最も難しいと感じます。尊敬語や謙譲語など種類があり、使い分けに苦労しています。

初めて日本に来たときはほとんど話すことができず、周囲の会話も聞き取れませんでした。コミュニケーションを通じて徐々に習得していきました。外国語を学ぶうえで、コミュニケーションが最も大切だと思います。

Q. 趣味は何かありますか。

趣味は旅行です。旅行は気分転換になるだけでなく、普段触れられない文化や景色に出会うことで、視野を広げるきっかけにもなります。先日は中国の友人が住む東京を訪れて観光しました。横浜中華街では本格的な中華料理を楽しみ、鎌倉では友人と一緒に街を散策しながらショッピングを満喫しました。

今年の冬は北海道へ行き、雪景色や地元の食文化も体験してみたいです。



〈取材〉学生編集委員

吉村 希 国際学科3年(写真左端)

塚本 愛美 ロボット理工学科4年(写真右から2人目)

森山 裕多 宇宙航空学科2年(写真右端)

第77回

私の学生時代

創発学術院 渡邊 天鵬 たかゆき
特任助教



面白いほうへ

人は何を力にして生きていくのでしょうか。振り返れば、私を突き動かしてきたのはいつも「面白い」という好奇心でした。

私は山梨県の富士河口湖町とい



▲ 研究室の打ち上げにて(右から2番目が筆者)

う、南に雄大な富士山を仰ぎ、北に静謐な河口湖をたたえる美しい土地で生まれ育ちました。そう言えば聞こえは良いのですが、要するに田舎で、大学進学にあたっては単身生活が必須でした。それなら場所は関係ないだろうと、結果的に関西の大学へ進むことになりました。

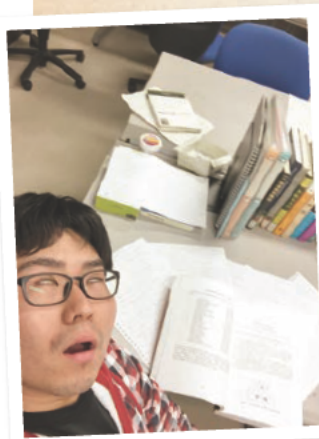
高校生の時から物理や数学が好きで、大学では理学部を選びました。相対性理論や量子力学など、当時は名前しか知らなかった学問に、ただ名前の響きが格好いいという理由だけで憧れを抱き、物理と数学の勉強に熱中しました。大学入学と同時に「研究者になりたい」という夢を持ちましたが、その道の厳しさを耳にし、自分ができるのかという不安もありました。大学1年生では、とにかく幅広く

経験してみようと活動しました。理科に進んだ以上、文系科目を体系的に学べるのはこれが最後の機会だと思い、哲学、経済、歴史、心理学、文学などの授業をあえて履修しました。自転車競技部にも所属してレースに一度だけ出場しましたが、アルバイトが忙しくなり1年で辞めてしまいました。

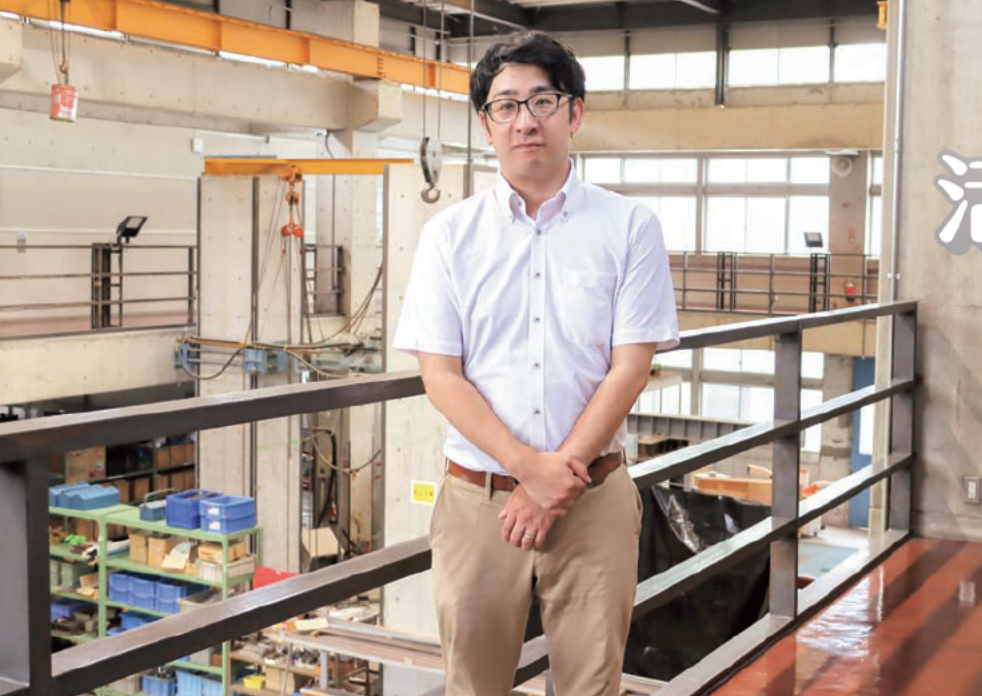
数学に本格的にのめり込んだのは大学3年生の時です。2年生の頃に、アールフォールス著の『複素解析』という有名な本を手に取りましたが、説明が簡潔で内容が難解なため途中で挫折しました。しかし一年後、他分野を学んでから改めて読み直すと、不思議なことに以前は全く理解できなかった箇所がすつと分かったのです。遠回りの末に得られたこの成功体験

は、何にも代えがたい幸福でした。

その後の道は確かに険しいものでした。同じ夢を抱きながら別の道を選んだ友人も多くいます。読者の皆さんは、いま目指しているものはありますか。「面白い」と感じることを追いかける姿勢こそが、人生を形づくるのだと私は思います。たとえ遠回りでも、その経験は必ず自分の血や肉となり、かけがえのない財産になると信じています。あの日の感動を胸に、私は今日も数学の研究を続けています。



▲ 数学に没頭しすぎた？



春日井市役所

米山 創さん

2010(平成22)年度都市建設工学科卒業

地域インフラの未来を「共創」する

地方公務員の土木技術者として、春日井市役所で道路やごみ処理施設などの公共インフラに関する工事の施工管理や設計を担当している米山創さん。米山さんは、「土木分野は非常に幅広く、まちづくり推進、上下水道、建設、環境といった多岐にわたる事業があります。建物の土台(地盤)の強度設計・改良といった根幹の役割から、区画整理や再開発計画まで、幅広い業務に携わるのが特徴です」と話す。

現在配属されている環境部では、166億円をかけたごみ処理施設の大規模改修工事を担当。施設は週6日、24時間稼働しているため、設備を止めずに工事を進める工程調整が最大の難題であるという。元請けや下請けの業者間の調整役として、巨大プロジェクトの進行管理を担っている。

公平性と市民との共創

「この仕事の最大の醍醐味は、手掛けた工事が完成し、『モノ』として目に見えることです。特に、市民と協働して地域課題に取り組む事業では、完成した際に地域住民から『よくやってく

れたね』と直接感謝の言葉をいただける瞬間が、最高の充実感につながっています」と笑顔で語る米山さん。

また、仕事で心掛けていることは「公平な視点を忘れないことです。限られた予算とリソースの中で行政サービスを提供するにあたり、一部のみに偏ることなく、『サービスの総量と分配のバランス』を常に意識しています」と語る。「この公平性の視点が実を結んだ例として、以前、廃線寸前の公共交通(バス)について、地域住民と協力してデマンド交通という新しい仕組みを共に実現した経験があります。この地域と行政による『共創』こそが、大きなやりがいとなっています」

学科と研究室での学び

現在の仕事には、学生時代に都市建設工学科で学んだ手書きの製図のルールが、現在のCAD設計の基礎として非常に役立っているという。「構造物の設計を行う上でのベースとなる構造力学や土質力学は、最低限しっかり学んでおくべき必須科目だと痛感しています。実際、就職してから学び

直しました」

卒業研究では、コンクリートの耐久試験に取り組み、コンクリートを一つずつ圧縮機械にかけて壊していく試験を行った。「1つ壊すのに何十分もかかるため、研究室に寝泊まりしていました。研究室の皆と協力しながら行った破壊試験は、大変ではありましたが、今となっては楽しい思い出になっています」

未来を拓く学生生活を

後輩となる学生の皆さんへ「学生のうちはチャンスしかないということを意識し、就職に向けて何か一つ努力することが、その後の未来を大きく変えると思います。人生の選択に迷ったときは、先輩や周囲の人に相談してください。さまざまな意見を参考にしながら、自分の進む道を見つけてほしいです。また、学生時代には興味のあることにどんどん挑戦してみてください。大学での学びや経験は、社会に出たときの大きな財産になります」とメッセージを送る。

CAMPUS NEWS



第62回中部大学祭

10月31日～11月2日、第62回中部大学祭が開催された。今年のテーマは「縁、燦々」。毎年恒例の模擬店、研究発表展、学生・クラブ有志などによる企画が全日程を通して行われたほか、1日目には花火が打ち上げられ、2日目のタレント企画に「春とヒコーキ」「そいつどいつ」「大谷健太」を迎えてお笑いライブが行われた。また、同窓会主催の卒業生を対象としたホームカミングデーも開催された。



第64回フレッシュマンキャンプ

9月13～16日、岐阜県恵那市にある中部大学研修センターで3泊4日のフレッシュマンキャンプが行われ、1年生47人と上級生のリーダー学生7人が参加した。天竜峡登山やキャンプファイヤー、馬籠宿散策などを行い、交流を深めた。



2025年度伊藤早苗賞表彰式

7月23日午後、2025年度伊藤早苗賞表彰式が行われた。若手女性研究者部門で山内星子准教授(人文学部心理学科)が、女子大学院生部門で日夏雅子さん(工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程3年)と和田結佳さん(生命健康科学研究科生命医科学専攻博士前期課程2年)が受賞した。



学内業界セミナー

10月3～5・11・12日の5日間、学内業界セミナーが開催された。3～5日は対面で三浦幸平メモリアルホールを会場に、11・12日はオンラインで行われた。436社の企業が出展し、3～5日は学生延べ790人、11・12日は学生延べ565人が参加した。



2025年度秋季学位記授与式

9月30日、2025年度秋季学位記授与式が開催され、学部生36人、大学院博士前期課程・修士課程3人、博士後期課程1人に学位記が授与された。今年度から学部・研究科単位での開催となり、各学部・研究科で執り行われた。



100円朝食

9月19日～10月24日の授業日に、湯浅糸道ホール(第1学生ホール)で学生の食習慣の改善や生活習慣の形成、物価高騰に対する経済支援として100円で朝食が提供された。学生らは和食とカレーの日替わり、またはパンセットから選んでいた。



黒潮のお弁当がオープン

9月19日、キャンパスプラザ1階に黒潮のお弁当がオープンした。お弁当のほか、丼ものや飲み物が販売されている。



総合防災訓練

10月8日午後、総合防災訓練が実施され、学生、教職員合わせて2,012人が参加した。緊急地震速報の訓練放送による全員参加のシェイクアウト訓練、避難誘導訓練・人数確認、AED・応急処置等の実技訓練、消火訓練などが行われた。



本学と愛知教育大学が 教員養成の高度化に関する協定を締結

9月22日午前、本学と愛知教育大学による教員養成の高度化に関する連携協定の締結式が愛知教育大学で行われた。この協定は愛知教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)への進学を希望し、教員を志す本学学生を対象に、教育実践力を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的としている。



Chubu Emotional Campus Spot PHOTO Contest表彰式

10月1日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA2階スチューデント・コモンズでChubu Emotional Campus Spot PHOTO Contest表彰式が行われた。大学各所の「えもスポット」を撮影し、より「エモく」撮影できた作品が投票で選ばれ、学長賞と総得票数が上位の3人が優秀作品賞を、各スポット(5カ所)の得票数1位の5人が入賞した。

受賞作品は学生ポータルで公開 ▶



学長賞



奥川 芽衣菜さん
現代教育学科 現代教育専攻4年

得票数第1位



平野 望夢さん
応用化学科2年

第2位



清水 来渚さん
幼児教育学科3年

第3位



森山 裕多さん
宇宙航空学科2年

ネーミングライツ・パートナーが 学生を対象に無料ランチを提供

10月29・30日、湯浅糸道ホール(第1学生ホール)で、ネーミングライツ・パートナー(湯浅糸道工業株式会社)による限定ランチが学生を対象に250食無料で提供された。事前に配布されたくじで「当たり」を引いた学生に提供され、特別なランチを楽しんだ。



CU-Robocon2025

7月25日、三浦幸平メモリアルホールで、中部大学学長杯争奪LEGOロボットコンテストCU-Robocon2025「WRO Japan 2025東海地区予選会」(高校生部門)が開催され、16校31チーム79人が出場した。本コンテストは8月23、24日に東京都で開催された「WRO 2025 Japan 決勝大会」の予選会も兼ねており、優勝チームは8月24日の決勝ラウンドへ、2～4位の3チームは8月23日の予選ラウンドへの出場権を得た。



PBLゼミ2025

9月16日、PBLゼミ2025が開催され学生15人が参加した。中部大学長認定「地域創成メディエーター」の資格取得を目指す学生たちが、学部・学科の垣根を越えて、1年生から3年生の混合グループで自己の探求やコミュニケーションについて学んだ。



経営総合学科が高大連携授業で開発した コラボスイーツを春日井まつりで販売

10月18・19日、春日井市内で春日井まつりが開催され、本学から都市建設工学科、経営総合学科が出展した。経営総合学科のブースでは高大連携授業の一環で愛知県立春日井泉高校と春日井市内の和菓子店・洋菓子店と共同で開発したスイーツが販売された。また、19日に開催されたパレードには中部大学大学祭実行委員会、ボランティア・NPOセンターの学生が参加した。



経営総合学科×佐橋工業株式会社×株式会社Creative Design Platform 「SAZAN Cross Project」

7月16日午後、21号館5階の講義室で経営総合学科の趙偉研究室による産学連携プロジェクト「SAZAN Cross Project」の最終報告会が行われた。本プロジェクトは佐橋工業株式会社と株式会社Creative Design Platformのご協力の下、「デザイン思考」という手法を用いて新製品開発を行うもので、学生たちは5班に分かれ「防災」をテーマに考案した製品を紹介。製品を考えたきっかけやターゲット層(ペルソナ)、市場の需要分析についてプレゼンテーションを行った。



日本伝統文化推進プロジェクト 「花鏡野外能」「伝統話芸の世界」

10月29日午後、人文学部花鏡の庭で、日本伝統文化推進プロジェクト主催の「花鏡野外能」が開催され、学生154人が参加した。第1部は一節切尺八研究者の加藤いつみ氏の演奏と和泉流狂言師の佐藤友彦氏による狂言が、第2部は観世流能楽師の久田三津子氏による能が披露された。また、11月5日午後には旭堂麟林氏と登龍亭獅竜氏による「伝統話芸の世界」が開催され、学生96人が参加した。



第20回中部大学フェア2025

9月12日、第20回中部大学フェアが開催され、497人が来場した。特別講演は、島田邦雄氏(島田法律事務所 代表弁護士)が「企業弁護士から見た司法の風景～我が国司法の仕組みを踏まえて～」をテーマに講演。講堂(体育館)ではポスターセッションやピッチ形式ミニ講演会など産学連携を目的とした研究紹介が行われた。



【COC継続事業】 サマースクール2025 in KAIZU

8月27・28日と9月3日、COC+事業参加大学(中部大学、岐阜大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学)合同の「サマースクール2025 in KAIZU」が開催され、本学の学生3人が参加した。学生が合同で地域が抱える問題に取り組み、解決策を提案した。



アジアサマースクール in Bangkok 2025 帰国報告会

11月5日午後、リサーチセンター2階大会議室でアジアサマースクール in Bangkok 2025 帰国報告会が行われた。8月24日～9月6日の2週間、タイで実施されたアジアサマースクールに、タイ・ネパール・フィリピン・ベトナム・ラオスからの参加者と本学の学生8人が参加した。アジア工科大学院での講義や、フィールドワーク、タイの歴史文化体験などについて学生7人が報告した。



辻莉子さんが英検1級に合格

辻莉子さん(英語英米文化学科4年、D.Rローレンス研究室)が、実用英語技能検定(英検)1級に合格した。英検1級は、英語資格試験の中でも最難関レベルとされ、大学上級程度の高度な語彙力・読解力・表現力が求められる。合格率は全受験者の1割程度といわれており、国内外での高い評価につながる資格である。



岡本直樹さんと藤吉零さんが 画像の認識・理解シンポジウムMIRU2025で受賞

岡本直樹さん(工学研究科ロボット理工学専攻博士後期課程3年、藤吉弘亘研究室)と藤吉零さん(同博士前期課程1年)が7月29日～8月1日に国立京都国際会館で開催された画像の認識・理解シンポジウムMIRU2025で藤吉さんはMIRUインタラクティブ発表賞を、岡本さんはMIRU論文評価貢献賞を受賞した。藤吉さんの研究タイトルは「最適輸送コストを用いたモデルマージによるアンサンブル知識蒸留」。



左から岡本さん、藤吉さん

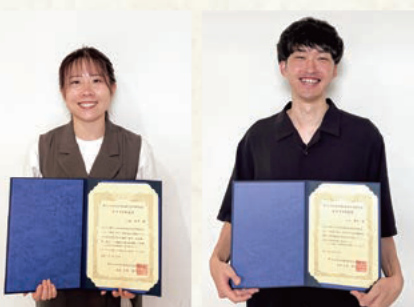
須藤雄哉さんが測位航法学会「全国大会2025」で 学生優秀研究発表賞を受賞

須藤雄哉さん(工学研究科宇宙航空理工学専攻博士前期課程1年、海老沼拓史研究室)が5月21～23日に東京海洋大学越中島キャンパスで開催された測位航法学会「全国大会2025」で学生優秀研究発表賞を受賞した。発表タイトルは「2機の周回衛星を用いた月面測位システムの測位精度特性」。



太田鈴乃さんと山口響生さんが 第72回日本栄養改善学会学術総会で 若手学会発表賞を受賞

太田鈴乃さん(応用生物学研究科応用生物学専攻博士後期課程1年、田中守研究室)と山口響生さん(同博士前期課程1年)が9月12～14日に東京農業大学世田谷キャンパスで開催された第72回日本栄養改善学会学術総会で若手学会発表賞を受賞した。太田さんの研究タイトルは「高食塩食が食物アレルギー症状を悪化させる機序の解明—免疫機能、腸管バリア機能及び腸内細菌叢への影響—」。山口さんの研究タイトルは「麦芽かすの食品機能性評価—未利用資源の有効活用を目指して—」。



太田さん

山口さん

食品栄養科学科・CAT(Chubu Aerospace Team) なごや・サイエンス・ひろばに出展

8月2日、名古屋市のなごやサイエンスパークで開催された「なごや・サイエンス・ひろば2025」に、食品栄養科学科と、宇宙航空学科の学生が中心となり活動をしているちゅうろぼ採択プロジェクト「CAT(Chubu Aerospace Team、旧スペースガールズ+)」が出展。訪れた子どもたちに食べられるサボテンを実際に触る体験、Cansat(小型の模擬人工衛星)のプログラミング体験を行った。



食品栄養科学科×経営総合学科 まるや本店中部国際空港店との コラボ御膳のメニュー考案に参加

9月1日～11月30日、食品栄養科学科管理栄養科学専攻の香西はな研究室と経営総合学科の清水真研究室の学生が中部国際空港開港20周年を記念した特別記念御膳第2弾のメニュー考案に参加した。発酵食にこだわった秋限定ひつまぶし御膳が提供された。



スポーツ保健医療学科 豊田市消防本部と合同で救急技術発表会を開催

9月11日午前、豊田市消防本部足助消防署で救急技術発表会が開催された。本学のスポーツ保健医療学科の学生が豊田市消防本部と合同で、救急救命の現場を想定した3つの訓練会場で模擬患者に対して応急処置や搬送を行った。



被災地支援活動

9月3・4日、中部大学ボランティア・NPOセンターの学生が東日本大震災の被災地を訪れボランティア活動を行った。宮城県石巻市震災遺構大川小学校とリアス・アーク美術館、東日本大震災津波伝承館などの視察と、慰霊碑周辺の環境整備を行った。2011年9月の初訪問から14年目、25回目となった。



村田大希さんが男子ユース(U-19) ハンドボール日本代表に選出

村田大希さん(経営総合学科1年)が、男子ユース(U-19)ハンドボール日本代表に選出された。村田さんは8月6日よりエジプトで開催された第11回IHF男子ユース(U-19)ハンドボール世界選手権に出場した。



サッカー部

樋口有斗さんが「横浜F・マリノス」に加入内定

本学サッカー部の樋口有斗さん(日本語日本文化学科3年)が、Jリーグ「横浜F・マリノス」(J1所属)の選手として2026シーズンより加入することが決定した。本学サッカー部からプロサッカー選手となるのは、2人目である。



シンフォニックバンド

愛知県吹奏楽コンクール県大会で金賞、 2025年吹奏楽コンクール東海大会で銀賞を受賞

8月3日、幸田町民会館で開催された2025年度愛知県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、東海大会への推薦枠を獲得した。9月7日、不二羽島文化センターで開催された第80回東海吹奏楽コンクールで銀賞を受賞した。



あつまれ!!わんぱく隊

8月2日午前、現代教育学研究所と現代教育学部共催の「あつまれ!!わんぱく隊」が開催された。わんぱく隊の学生が年中から小学2年生までの子どもを対象に、「水の力で自分だけのTシャツを!」をテーマに白いTシャツに自由に色付けし完成したTシャツで遊びを行った。また、10月11日午前には「そらに向かって色のヒカリを飛ばそう!」をテーマに開催された。



第39回清掃キャンペーン

10月29日午後、第39回清掃キャンペーンが行われ、C.U.P.(Clean Up Project in Chubu Univ.)の学生を中心にクラブ・公認団体所属の学生を合わせて88人が参加した。1時間余りにわたりキャンパス各所を清掃した。



オープンキャンパスを開催

8月2～4日、夏のオープンキャンパスが行われ、3日間で9,190人の高校生・保護者らが参加した。各学科の学生も学生スタッフとしてオープンキャンパスを盛り上げた。また、秋のオープンキャンパスが10月12日に開催され、高校生・保護者ら1,656人が参加した。



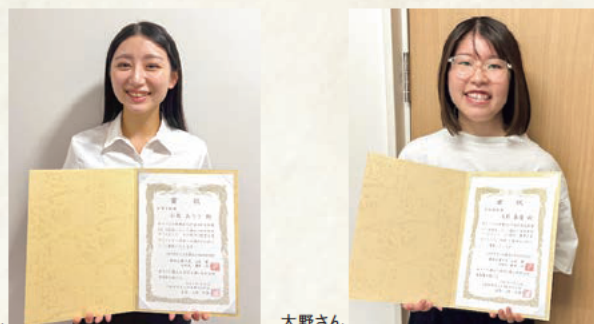
備蓄品配布会を実施

9月25・26日午後、不言実行館ACTIVE PLAZAエントランス前で中部大学ボランティア・NPOセンター主催の学生向け備蓄品配布会が行われた。学生に防災意識を高めてもらう目的で、本学の防災対策協議会より提供された使用期限や賞味期限が近づいている備蓄品を、防災に関するリーフレットと共に配布した。



小泉ありささんと大野真優さんが 日本農芸化学会中部支部 第202回支部例会で受賞

小泉ありささん(応用生物学研究科応用生物学専攻博士前期課程2年、宮田茂研究室)と大野真優さん(同博士前期課程1年、岩崎雄吾研究室)が9月20日に名古屋大学野依記念学術交流館で開催された日本農芸化学会中部支部第202回支部例会で小泉さんは企業奨励賞を、大野さんは学術奨励賞を受賞した。小泉さんの発表タイトルは「キシラン資化性ウェルシュ菌の構築を目指したClostridium属由来酵素の導入」。大野さんは「新規ホスファチジン酸特異的ホスファターゼ候補遺伝子の解析」。



小泉さん

大野さん

硬式野球部

2025年度愛知大学野球連盟秋季リーグ戦で 4人が個人賞を受賞

2025年度愛知大学野球連盟秋季リーグ戦において、ベストナイン外野手に松本祐斗さん(経営総合学科4年)、三塁手に高橋翼さん(同2年)、一塁手に中森皓也さん(国際学科3年)、津波英太郎さん(同)が最多奪三振、最多勝利を受賞した。松本さん、高橋さん、中森さんは初受賞、津波さんは最多勝利は3季ぶり2度目、最多奪三振は初受賞となった。



左から高橋選手、津波選手、松本選手、中森選手

ハンドボール部

令和7年度秋季リーグ戦で最優秀選手賞と 3人が優秀選手賞を受賞

令和7年度(2025)年度秋季リーグ戦で平野凌斗さん(スポーツ保健医療学科4年)が最優秀選手賞を、三浦武蔵さん(日本語日本文化学科3年)、福原翔真さん(経営総合学科3年)、ハリス希生さん(同1年)が優秀選手賞を受賞した。



左からハリスさん、平野さん、三浦さん、福原さん



看護実習センター

うめだ まさし
梅田 真志
助手・実習講師

①名古屋大学医学部保健学科看護学専攻卒業 ②学士(看護学) ③精神看護 ④名古屋市立大学病院こころの医療センター看護師 ⑤バドミントン、サウナ



メディア情報社会学科

いしかわ たつや
石川 達哉
助教

①東京芸術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了 ②修士(映像)(東京芸術大学) ③メディア、監視、地域社会、メディアアート、ゲームプログラミング ④㈱電通クリエイティブX Think & Craft エンジニア ⑤猫と一緒に過ごす、音楽ライブ

人間力創成教育院
語学教育プログラム
(英語)

ほんだ ひろあき
本田 浩章
助教

①オハイオ大学大学院教養学部応用言語学専攻修士課程修了 ②修士(応用言語学)(オハイオ大学) ③応用言語学、第二言語習得論、英語教育 ④トライズ株式会社新宿三丁目センターアシスタントコンサルタント ⑤英語学習、ウエイトトレーニング、映画鑑賞



保健看護学科

やまぐち えりこ
山口 江利子
講師

①愛知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了 ②博士(看護学)(愛知県立大学) ③地域保健看護学、公衆衛生看護学、助産学 ④春日井市役所 ⑤テニス、三味線、旅行



経営総合学科

さかぐち ほなみ
坂口 穂波
助教

①神戸大学大学院経営学研究科経営学専攻博士課程後期課程満期退学 ②修士(経営学)(神戸大学) ③経営戦略論 ④中部大学非常勤講師 ⑤散歩、美術鑑賞

新任の教員を 紹介します。

①最終学歴 ②学位 ③専門分野
④前職 ⑤趣味

企画、運営、演奏のすべてを学生たちが自ら作り上げる「中部大学音楽祭」。5つの音楽クラブ(シンフォニックバンド、混声合唱団、マンドリンクラブ、軽音楽部ナチュラルサウンズ・ジャズ・オーケストラ、管弦楽団)がさまざまなジャンルの音楽を披露します。



第21回 中部大学音楽祭

開催日時 12月14日(日)
14時30分～17時

会場 春日井市民会館

申し込みは
こちら



告知

Random Shot

第202回

「学生ファースト」の姿勢



学生支援課長
小川 英雄さん

最近子どもと一緒に風呂でバスボールを楽しむのが日課となっている。趣味はゴルフで、コンペへの参加がきっかけで最近本腰を入れて練習している。ストレス解消法は、ジムで汗を流すこと。体を動かすことで活力が湧いてプライベートの充実にもつながっている。

多様な活動を通じて培った力

学生支援課で課長を務めている小川英雄さん。以前は人事課や総務課で勤務していた。現在は、業務分担の調整や部下の育成を担い、課全体をまとめながら組織としての成果を最大化できるよう取り組んでいる。「課のアウトプットを高めるために、業務分担や仕事の振り方を考えています。新人指導を誰に任せるか、どのようにヒントを与えるかなども細やかに配慮しています」と話す。

また、小川さんが最も心がけているのは「学生ファースト」である。「例えば、窓口の終了時間を過ぎていても、事情を聞いた上で柔軟な対応を心掛けるなど、学生に寄り添った支援活動を考えるようにしています。また、学生にとって有益なお金の使い方を常に意識しています」と語った。

学生時代は大学祭実行委員会に所属し、人を動かす難しさを学ぶとともに、塾講師のアルバイトでは人前で説明するスキルを身につけた。また、フリーペーパーを制作する学生団体にも所属し、発行費を集めることから企画、取材・執筆、デザイン、配布まですべて学生だけで行った。「自分たちで事務所も借り、本格的にサラリーマンのような経験を積むことができました」

学生の皆さんには「学生時代の時間は、社会人になってから振り返ると本当に貴重だったと気付きます。一日一日を大切に、目標に向かって取り組んでみてください。勉強や部活動に限らず、遊んだり、いろいろな経験をしてあげれば良かったと感じることもあります。だからこそ、自分で制限をかけすぎず、幅広く挑戦してほしいです」とメッセージを送る。



う ら 話



第62回中部大学祭



▲ 石黒直樹
春日井市長も来場



▲ 打ち上げ花火「Twilight Ignition」



▲ ボーカル部
野外ライブ



▲ メインストリートの様子

秋空の下、第62回中部大学祭が10月31日から11月2日までの3日間にわたり盛大に開催されました。今年の統一テーマは「^{えん}縁、^{さん}燦々」。来場者や参加団体とともに、多彩なつながりで大学祭を創り上げたいという、実行委員たちの思いが込められています。キャンパスには、趣向を凝らした模擬店や熱のこもった研究展示が並び、ステージ企画の「PEACE STAGE」では学生たちの躍動感溢れるパフォーマンスが繰り広げられました。初日の夜を華やかに彩った打ち上げ花火「Twilight Ignition」は、祭りの開幕を劇的に盛り上げました。最終日は後夜祭のビンゴ大会でフィナーレを迎え、3日間を通して大きな賑わいを見せました。実行委員を中心に多くの学生の協力と努力が実を結び、大学祭は盛況のうちに幕を閉じました。学生の笑顔が印象的な3日間となりました。

編集 後記

今号の学生編集委員のページでは、学生編集委員がキャンパスを歩き、学生の皆さんに突撃取材を行いました。学業や部活動に励む中で抱く夢や目標を率直に語ってくださり、それぞれの言葉から、未来へ進む力強い思いが伝わってきました。取材にご協力いただいた皆さんに心より感謝いたします。まもなく新しい年を迎えます。2026年に向けて、皆さんもぜひ自分なりの新たな目標を立ててみませんか。

中部大学通信 ウプト No.235

発行日／2025年11月30日
発行／中部大学ウプト編集委員会
編集／入試・広報部 制作課
〒487-8501 春日井市松本町1200
<https://www.chubu.ac.jp/>
Tel: 0568-51-4465(制作課直通)
E-mail: info-seisaku@fsc.chubu.ac.jp